

	ヒューマンコミュニケーショングループ	<b>Contents</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 新運営委員長挨拶</li><li>・ 第11回HCGシンポジウム報告</li><li>・ 時限研究専門委員会設置のお知らせ</li><li>・ 研究会・関連行事カレンダー</li></ul>
	<i>Human Communication Group</i>	
	ニュースレター	
	2006年度 No.1	
URL: <a href="http://www.ieice.org/hcg/jpn/">http://www.ieice.org/hcg/jpn/</a>		

**ヒューマンコミュニケーション  
グループの昨今**  
平成18年度ヒューマンコミュニケーション  
グループ運営委員長  
相澤清晴 (東京大学)



ヒューマンコミュニケーショングループ(HCG)は、歴史のある伝統的な電子情報通信学会において、ある意味、画期的な組織である。遡れば、95年に本学会が現在のソサイエティ制に移行する時にできた組織であって、活性化を目指して学会の垂直的な分化を進める際に、水平的にソサイエティ横断的な組織として位置付けられて生まれた。名前からしてすこし柔らかめであるが、情報ハードとソフト指向の学会にあって、“人が中にあるシステム”や“システムの中の人”といった人よりの話題を扱っている。

現在、4つの第一種研究会があり、その他にいくつかの時限研究会がある。小回りのきくグループであるため、時限研究会の提案も少なからずあり、今年度にもさらに2-3の新しい時限研究会の提案が見込まれている。“人”よりの話題であり、“横断的な”複数の領域にまたがるような話題は、本グループにとってもよく適合する。ヒューマンファクターは、技術が成熟するほど重要さを増す課題であり、今後の情報技術で本グループの対象とする領域は成長を続けるであろう。新規の提案は歓迎である。

横断的な特徴を反映して、通常の電子情報通信学会とは、異なったコミュニティからの参加も多く、例えば、心理関係、福祉関係の研究者も加わっている。(福祉関係では、特に、福祉情報研究専門委員会が活発な活動を行っており、情報保障マニュアルまで作成し、例えば、聴覚の不自由な人が研究会に参加する時には、主催者側はどのような対応をとればよいか事細かに書かれている。) 新しいキーワードをもつ研究グループができることも多く、設立当初(95年)に、マルチメディアとか仮想環境といった名称をもつ研究会がいち早くできた。最近ではWebに関する時限研究会もあり、その活動も盛んである。

これまで、HCGは、小規模で横断的であるがゆえに、研究会関連、大会関連の事業だけに注力してきた。HCGは、直接、論文誌を持っていない。(このため、研究者が論文を出すときは、関連のソサイエティの論文誌に出してきた。また、特集号の企画は、同様に関連ソサイエティへ提案してきた。) そのあり方は、HCGの中でも、長いこと議論の対象でもあった。さらに、ごく最近の各ソサイエティの独立採算化の進行に応じて、HCGはソサイエティになるのか、グループでありつづけるのかについて改めて問いかけられている。運営のためのお金も絡み、深刻な問題である。いままで長く行われた議論を踏まえて、この問題については、今年度のうちに結論を出して、方向付けを行いたいと思っている。

かなり異なる背景の人が集まるため、HCGには共通の興味で結びつく“同好会的色彩”が強い。学会の基本に立ち返るような重要な部分だと思う。このような組織は、とても貴重だと思っている。



**第11回ヒューマンコミュニケーショングループ(HCG)  
シンポジウム報告**

**佐藤 誠 (東京工業大学)**

ヒューマンコミュニケーショングループ(HCG)では、毎年の恒例となっているグループ大会を、本年度は国士館大学で開催された本会総合大会(3月24日-27日)に先立ち、3月22日と23日、東京工業大学大岡山キャンパスにて開催しました。

昨年と同様にHCG傘下の4研究会の研究会と第2種研究会「Web インテリジェンスとインタラクション」が同時開催の形で行いました。5研究会合わせて、78件(昨年87件)の発表が行われ、多くの参加者による活発な質疑が行われました。また、優秀研究会論文を表彰する「ヒューマンコミュニケーション賞」の贈呈式も23日12:00~13:30に懇親昼食会(学生食堂2階)の場にて行われ、受賞者には乾敏郎委員長より賞状と記念品が贈呈されました。

また、HCG特別企画として、公開シンポジウム「行為の認識と生成」が行われました。行為の認識と生成は、表裏一体となって脳内で実現されていることが明らかにされつつあり、このような知見に基づき、さまざまな工学的研究も進められており、ヒューマンコミュニケーションを考える上でも重要な視点であります。シンポジウムでは、この分野の先駆的な研究者である國吉康夫先生(東大)、尾形哲也先生(京大)、峯松信明先生(東大)、そして村田哲先生(近畿大)にお話いただき、その後、乾敏郎委員長の司会の下、活発な討論を行ないました。

なお、次回の日程は07年3月23~24日であり、総合大会(07年3月20~23日、於名城大学)に引き続き、行われる予定です(会場未定、於名城大学近辺)。奮ってのご参加をお願いします。

**時限研究専門委員会  
設置のお知らせ**

ヒューマンコミュニケーショングループに、新たな時限研究専門委員会が設置されました。詳細は以下の通りです。

**設置する委員会名：脳情報通信研究会**

**委員長：小林郁太郎 (東京大学)**

**(1) 委員会設置の目的**

近年、脳機能計測技術の急激な進歩とともに、知覚・学習・言語などの高次認知機能や情動・感情などに関する研究が進み、臨床や社会と関連する諸分野への応用が期待されています。メディアでも科学的な根拠に基づくものから興味本位のものまで含めて過剰に報道されていて、脳情報の利用について社会の関心度が高まっています。

情報通信分野では、「いつでもどこでも」のユビキタスネットワークの時代を経て、感情や感性を伝達する新たなコミュニケーションのスキームが今後益々求められていくと予想されています。その中で脳情報に係る技術は、感性を伝達するような映像・音響表現等情報通信技術の高度化のみならず、医療・福祉現場でのコミュニケーション手段として、また、言語を超えた意思疎通手段として、安心・安全な社会の形成に貢献するものと期待されます。しかしながら、技術の急速な進歩だけが先行し、安易にビジネス化しようとする傾向もでてまいりました。脳計測技術はこれまでにない広範な可能性を有する科学技術ではありますが、人間の心に踏み込む技術であるため使い方によっては危険なものともなりえます。ビジネスだけが無秩序に乱立すれば今後大きな社会問題となることも考えられます。

このような背景のもと本研究会では、感情・感性を司る脳の機能を基本に、感覚情報を伝達する方法論やそれを実現するためのデバイス・システムの創成を目指し、情報通信、エレクトロニクス等のエンジニアリング領域と脳神経科学、臨床心理学、社会心理学等サイエンスの領域の研究者・技術者が意見交換するとともに、得られた技術を運用するための社会的ルール(倫理規定)を社会学者や医療現場の医師等とともに討論する場を提供することを目的とします。

## (2) 活動計画

研究専門委員会は東京と大阪で年4回程度開催する。研究会は招待講演および公募講演による研究発表を併用したものを年2回程度開催する。また設置機関内に、国際的シンポジウムおよびジャーナル特集号を企画し、議論して得た成果を広く普及させる。

## (3) 担当する分野

医学、心理学、社会学といった学術領域の研究者・技術者の意見を取り入れながら、感性に関わる新たなコミュニケーションスキームの方法論やその実現手段としてのデバイス・コンポーネンツ・システムを中心に議論を行う。具体的な項目は以下のとおりであるが、それらに限定することなく分野横断的な交流を積極的に進める。

- ・ 脳機能計測法
- ・ 生体センシングデバイス/コンポーネンツ/システム
- ・ センサーネットワーク/システム
- ・ 新映像・音響システム
- ・ ニューロインフォマティクス
- ・ メカトロニクス, ロボティクス
- ・ 人工知能
- ・ 脳機能と臨床心理学/麻酔学
- ・ 脳情報技術に係る社会学(倫理)

## (4) 設置期間

2006年7月1日~2008年6月30日

## (5) 英文名称(英文略称)

Brain-based Information and Communications Technologies (BICT)

## (6) ホームページ

準備中です。

## (7) 副委員長

村田 勉 (情報通信研究機構)

片桐 祥雅 (NTT)

横山 士吉 (情報通信研究機構)

## 幹事

田中 秀吉 (情報通信研究機構)

連絡先

Tel:078-969-2147,Fax: 78-969-2259

E-mail: tanakas@nict.go.jp



## ヒューマンコミュニケーショングループ研究会・関連行事カレンダー

詳しくは、HCG ホームページ <http://www.ieice.org/hcg/jpn/> をご覧ください。

### — 2006年9月 —

★第5回科学情報フォーラム(FIT2006)  
【期日】2006年9月5日(火)～7日(木)  
【会場】福岡大学  
【HP】<http://www.ipsj.or.jp/10jigyo/fit/fit2006/>

★マルチメディア・仮想環境基礎(MVE)研究会  
【期日】2006年9月12日(火)～13日(水)  
【会場】北海道大学  
【題目】複合現実感、仮想都市、および一般

★ヒューマンコミュニケーション基礎(HCS)研究会  
【期日】2006年9月30日(土)  
【会場】芝浦工業大学豊洲キャンパス  
【題目】顔メディアとコミュニケーション

### — 2006年10月 —

★福祉情報工学(WIT)研究会  
【期日】2006年10月12日(木)～13日(金)  
【会場】公立はこだて未来大学  
【題目】福祉情報工学一般

★ヒューマン情報処理(HIP)研究会  
【期日】2006年10月26日(木)～27日(金)  
【会場】金沢工業大学  
【題目】マルチモーダル知覚&統合とその応用、一般

### — 2006年11月 —

★Web インテリジェンスとインタラクション(WI2)研究会  
【期日】2006年11月12日(日)～13日(月)  
【会場】東京大学先端技術研究センター  
【題目】ユーザ嗜好情報抽出技術、他

★マルチメディア・仮想環境基礎(MVE)研究会  
【期日】2006年11月30日(木)～12月1日(金)(予定)  
【会場】松下電工(汐留)  
【題目】ユビキタス環境がもたらす未来図  
【共催】AI と併催

### — 2006年12月 —

★福祉情報工学(WIT)研究会  
【期日】2006年1月6日(水)  
【会場】産業総合研究所臨海副都心センター  
【題目】肢体不自由者支援、一般  
【共催】知覚代行シンポジウムと併催

★ヒューマンコミュニケーション基礎(HCS)研究会  
【期日】2006年12月12日(火)～13日(水)  
【会場】慶應義塾大学日吉キャンパス  
【題目】HAI(Human-Agent Interaction)および一般

★ヒューマン情報処理(HIP)研究会  
【期日】2006年12月  
【会場】東北大学  
【題目】感性情報の基礎と応用および一般

### — 2007年1月 —

★福祉情報工学(WIT)研究会  
【期日】2006年1月25日(木)～26日(金)  
【会場】立命館大学草津キャンパス  
【題目】福祉と音声処理、一般  
【共催】SP, TL と共催

★マルチメディア・仮想環境基礎(MVE)研究会  
【期日】2006年1月25日(木)～26日(金)  
【会場】アジア太平洋インポートマート(小倉)  
【題目】触覚、五感メディアの品質、一般  
【共催】CQ と併催

### — 2007年3月 —

★ヒューマンコミュニケーション基礎(HCS)研究会  
【期日】2007年3月下旬  
【会場】東京  
【題目】ヒューマンコミュニケーションおよび一般  
【備考】HCG シンポジウムの一環として開催

★HCG シンポジウム  
【期日】2006年3月  
【会場】未定(東京)